

「2020年東京開催効果」でパラリンピックに対する理解は広がってきた。だがパラリンピック競技に含まれない障害者スポーツの国際大会を取り巻く環境は依然厳しい。その一つで、トルコ・サムスンで30日まで開催されている聴覚障害者の「五輪」、第23回夏季デフリンピックから障害者アスリートの実情と支援のあり方を考えた。

# 聴覚障害者の「五輪」 デフリンピック 乏しい強化費

## 認知度や寄付。パラと格差



編集委員  
井手裕彦

編集委員  
(トルコ・サムスンで)  
荒井秀一

### 盛り上がる祭典

今回のデフリンピックは21競技に史上最多の97か国・地域から約3100人が参加。18日の開会式はスタジアムがほぼ満員になった。楽器の演奏や踊りのパフォーマンス、聖火リレーなど五輪に似たプログラムで進行。地元トルコ選手団が入場すると、観客は国旗を振り、熱狂した。

日本からは11競技に選手108人が参加。旗手を務めたサツカーの古島啓太選手(26)は「スタジアムが大きく、イメージと違った」と驚き、視察に訪れたスポーツ庁の鈴木大地長官も「こんなに大きな大会とは思わなかった。世界中から選手が派遣され、各国が力を入れていると語った。聴覚障害者への配慮が大会の特徴だ。各会場には手話通

記者のボランティアが待機。メダル授与式では、国歌に合わせて手話を披露する国もある。観客席にも国外から訪れた聴覚障害者の姿が目立つ。スポーツ大会というより、さながら「聴覚障害者の祭典」といった雰囲気だ。

### 難しい両立

一方、日本選手が抱える一番の悩みは、仕事と競技の両立の難しさだ。合宿は土、日しかできない。大半の選手は有給休暇をとって出場。「病気があつたら」と不安を訴える。女子選手の一人は「競技一本に打ち込みたい」と先月末、勤務先を辞めた。

## 解説 スペシャル

渡航費の負担もパラリンピック

話通訳など多くのスタッフが必要で、役員69人中34人は渡航費約57万円の全額負担となる。

### 魅力を発信

競技団体の台所も火の車。国の助成による強化費は今年

## 日本は未開催可能性探る

日本は五輪とパラリンピックで夏、冬ともアジア初の開催を果たした。デフリンピックでは日本開催はまだなく、台湾が2009年、アジア初の夏季大会を開催した。

全日本ろうあ連盟は昨年度に戦略調査チームを設け、過去の開催地の資料を取り寄せ、開催の可能性を探っている。早ければ25年夏季大会招致を視野に、来春、結論を出す方針だ。

デフリンピック招致では昨年10月、参院予算委員会、安倍首相が「具体的な相談があれば国としてもしっかりとバックアップしていきたい」と



地元・トルコの選手団が入場し、一気に盛り上がった開会式の会場(18日、トルコ・サムスン) 荒井秀一撮影

### デフリンピックとパラリンピックの競技環境の格差

	デフリンピック競技	パラリンピック競技
参加対象	聴覚障害者	肢体不自由者(車いす・義手・義足使用など)、低身長症、視覚障害者、知的障害者
認知度(日本財団パラリンピック研究会2014年調査)	11.2%	98.2%
大会渡航費	国の補助以外の3分の1の金額を捻出する必要、さらに役員34人が全額負担	国の補助以外の3分の1の金額を日本障がい者スポーツ協会が支出、自己負担ゼロ
メダリストへの報奨金	なし	金150万円、銀100万円、銅70万円(日本パラリンピック委員会が支給)
ナショナルトレーニングセンター(NTC)の利用	デフ競技選手だけでは原則使えない	使用が増加。2019年春完成の第2NTCは五輪と共用。別に競技別強化拠点15か所
競技団体の事務所	各団体がオフィスを賃借したり、役員宅を充てたりしている	28団体が日本財団が提供したビルに入居。21年度まで家賃、光熱費無料
現地へ出向いた国内報道機関	サムスン大会は4社7人	リオデジャネイロ大会は活字媒体59社203人、放送はNHKが112人、スカパー!60人、ほかに民放(人数不明)
NHKの総放送時間	サムスン大会は計2時間13分予定。ほかに手話ニュースなどで紹介。競技中継はなし	リオ大会は開閉会式や注目競技の生中継など計126時間8分(スカパー!は計225時間)
日本オリンピック委員会によるトップ選手の就職支援	対象外	企業とのマッチングで11パラ競技の24人が就職

障害者スポーツの国際大会最も歴史が古いのは1924年、パリで聴覚障害者自身の運営で開催されたデフリンピック。パラリンピックは車いす使用者の大会として60年に第1回を開催。76年夏季大会で義手・義足使用者や視覚障害者ら身体障害者全般に広がったが、デフリンピックと統一はされなかった。98年長野冬季大会から知的障害にも門戸を開き、全障害者人口からみればパラ

### 障害者スポーツ多岐に

リンピック参加対象は約4割。ただ知的障害者が現在参加できる競技は陸上、水泳、卓球に限られる。知的障害の国際大会はほかに、日頃の成果の発表の場であるスペシャルオリンピックスと、記録重視のグローバルゲームズがある。一方、精神障害は昨年、堺市で日本、イタリヤ、ペルー3か国による世界初の国際フットサル大会が開かれた。心臓、腎臓などの内部障害は国内大会もない。

夏季デフリンピック開催地の歴史(日本は第10回から参加)

回	年	都市
1	1924	パリ
2	28	アムステルダム
3	31	ニュルンベルク
4	35	ロンドン
5	39	ストックホルム
6	49	コペンハーゲン
7	53	ブリュッセル
8	57	ミラノ
9	61	ヘルシンキ
10	65	ワシントン
11	69	ベオグラード
12	73	マルメ
13	77	ブカレスト
14	81	ケルン
15	85	ロサンゼルス
16	89	クライストチャーチ
17	93	ソフィア
18	97	コペンハーゲン
19	2001	ローマ
20	05	メルボルン
21	09	台北
22	13	ソフィア
23	17	サムスン

開催は、大会の6年前に国や開催都市、国内オリンピック委員会との支援証明書を添えて国際ろう者スポーツ委員会に立候補。評議員会の投票で過半数を取れば決まる。ろうあ連盟の久松三三事務局長は国や経済界の支援とともに人材の確保を課題に挙げている。夏季競技のうちハンドボール、レスリングなど4競技は日本に団体もなく、運営に精通した人材が求められる。